



遠宮で結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN

平成 19 年 (2007)

平成19年 大宮八幡祭り(秋の大祭)号【79号】
<http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp/>

主な目次

実りの秋に考へる……………	2 頁
大宮八幡祭り案内……………	3 頁
杜の話題……………	4 頁
大宮の杜 秋も深まり……………	7 頁
十五夜の神遊び案内……………	8 頁
初宮詣芳名……………	9 頁



第二十二回 神輿合同宮入り (九月十六日)

過る七月の末、五友会（主幹桑田忠幸氏）の例会に参加させて頂き、埼玉県嵐山町の安岡正篤記念館見学会に行つて来ました。記念館は当宮とも係り深い鎌倉武士畠山重忠の居館と云われている菅谷館跡に隣接しています。

五友会の名称にも縁り深い安岡正篤氏は東洋政治哲学、人間学の権威者で政界（戦後の歴代総理の指南役）、財界（経営者の啓発・教化など）を始め広く国民各層に影響を与えられた大人物であります。館長様より平成の年号の考案者として、又終戦の詔勅の「万世の為に太平を開く」の加筆のことなどの講義もありました。精神的骨抜き状態の混迷の今の日本には先生の思想の普及も大切なこと、思いました。

この見学会に先立ち自然農法を営んでおられる五友会会員の今野時雄さんご夫妻宅を尋ねました。三十七年間東京で会社経営の後、四年前より嵐山町に四町歩の田畑を借りて苦勞を重ねられた末、やっと自然農法を確立された方でございます。自然農は有機農法とも異なり、田や畑を耕さない「不耕起」と草を活かす「草生」で化学肥料や農薬、石油を使う機械を一切使わない、謂わば自然と共生の農業なのです。

先づ最初に案内頂いたのが雑草と共生しているトマト畑で、好きな丈、食べて下さいとの事で、赤く実つているトマトをもぎ、口に含みまですと甘くてとても美味しいことの上なく、幼き頃田舎で食べたあの時のトマトの味そのものでありました。参加者一同も同じ様な思いで舌鼓を打ち、次いで雑草畑でのジャガイモ掘り、一畝入れる毎にころころと転がり出て来ます。採れただけビニール袋に入れて土産に頂戴致しました。その後水田を見て今野宅での二十種類のメニユーによる昼食会、すべて自然農で採れた食材で自家製のものばかり、たけのこご飯、トマトと玉ねぎのサラダ、豆腐、卵の花、かぼちゃのいとこ煮、コロッケ、日本そば、カナダ式のピザ（修業中のカナダ人が調理）、パン（パン工房を目ざす日本女性）など次ぎ次ぎに運ばれて来ます。どれを食べても新鮮で美味しいものばかりでした。

実りの秋に孝へる

宮司 鎌日紀彦

今、食の安全問題は深刻です。特に中国産の輸入食材には有毒な化学添加物が多く含まれていると云われております。実は国内産でも、厚生労働省認可済みの合成保存料や合成着色料などの化学添加物が三三八種も使われているそうです。これ等を摂食している中にアトピーや花粉症、喘息、癌など発病する原因があるとも云われています。又、品種改良の名のもとに遺伝子が組み換えられた作物も、私共の健康や、環境破壊、生態系の変化につながる危険なものとも云われております。作物の害虫と雑草対策に、除草剤にも負けない様にと各々の種子に化学遺伝子が組み込まれていると云います。虫も食べない様な食物を私共は食べて良い筈が有りません。輸入食品にはこの様なものが多いとの事でありました。

今野家では水稲も自然農法で神宮発祥の「イセヒカリ」が栽培されてきました。やはり雑草との共生で田植えは無く、種蒔きから育て、目下分蘗中でありました。不思議な事を伺聞き致しました。播種の時、手のひらに精魂込めて播くのだそうですが、そうでなく精神的に不安定な人（研修生）が蒔いたところはなぜか発芽しなかったとの事です。草や虫などと共生させると云う事は、腐葉土の厚さ一〇センチ位の中で一億数千万の微生物や小動物の生態系が営まれており、その亡骸や排泄物が天然肥料の宝庫となり、植物も虫たちも半年の命で夏草や冬草と朽ち果て、重なり合つて地力豊かな土壌と成つていると云う事です。すべての生命は生態系の中で皆故あつて営み合い、お互いに共生するのが自然農の基本精神と云う訳であります。作物の形や色が悪くても安全で新鮮で、波動エネルギーの高い、豊富な栄養のある農作物を旨指す農業を心掛けて居られるのです。そうし

て妙な畑に立ち雑草と小動物の中で作物が育つて行くのを見て居ると、大地の造化力の偉大さ、有難さに感謝し、精神的にも癒され、食の安全をつくつくかみしめ、健康的な生活が夫婦共通の喜びであると満面笑みを浮べて話されているのが印象的でありました。

そうして過去一〇〇名近い研修生を受け入れられ、今も五名の研修生等と共同生活を共にされ、明かるく健やかに嬉々として自然農に勤しみ励んで居られるのです。これぞ將に神ながらの農法であると感激致した次第であります。

昔の農家の人々は土を如何に豊かにするか、地力を高めるために働き、生態系を壊さないで農業を守り続けて来ました。その里人等の精神文化は、それは素朴で合理的なものであり、自然に神々が宿っていることを実感し乍ら、人々は自然の恩恵を受け、生かされていることに感謝の生活をしておりました。

それがあまりにも豊かさや利便性を追求して来た結果、人の労働を使わないで如何にも合理的に生産性を高める為の方向へと進み、やがて現在の自然環境破壊、大気汚染、砂漠化、食の安全性など謂ゆる地球の諸問題へと発展してしまつたのです。これからは自然を豊かに開発する方向、即ち周りの自然も豊かにすることに依つて収穫を上げると云う、日本伝統の原点に立ち返り、その恵みを神仏のお蔭であると感謝し、生かされていることを感謝する生活をしたいたいものであります。

神々のお鎮まりになる大宮八幡の「鎮守の杜」は祈りの場であり、感謝の場でもあります。そうして癒しの場、安らぎの場でもあるのです。今年も大宮八幡祭りが近づいて参りましたが、ご参詣頂くことに依つて、心豊かに、心の充電をして頂きたいと思つております。



初秋爽やかに

大宮八幡祭り(秋の大祭)

例大祭・氏子奉幣祭 第二十二回神集會同宮入り

盛夏の酷暑も柔らく長月、秋の爽りを大神様に感謝するとともに、氏子崇敬者各位の安泰と皇室を中心とする我が国の隆昌発展を祈る大宮八幡祭り(秋の大祭)が今年9月16日を中心に斎行されます。前日15日夕刻より宵宮祭が、翌16日午前10時、例大祭並びに氏子奉幣祭が、神社本庁より献幣使参向のもと斎行され、秋の収穫の感謝と皇室国家の安泰を祈念、また大宮、方南、和田、松ノ木の氏子四地区よりの赤誠籠もるご浄財が氏子幣として大前に献じられます。さらに祭典中、奉茶の儀や大宮幼稚園園児による朝日子舞、佼成雅楽会の舞楽が奉奏されます。この日、午前中より氏子各町の神輿が次々に社参。また夕刻午後6時よりは第二十二回神輿合同宮入りが行われ、各氏子地区より八基の神輿が威勢良くご社殿前に練り込み、一斉に担ぐ神輿振りは壯観そのもので、熱気と興奮の坩堝と化します。



祭礼委員長 氏子祈願詞奏上

そして9月9日の弓道奉納射会を皮切りに、宵宮の15日は午前11時より小笠原流宗家ご奉仕による弓の神事「草鹿式」、園児民謡踊り、杉並太鼓、方南エイサー踊りなどの奉納、また当日祭の16日は高井戸囃子の奉納や裏千家による野点茶会も開かれます。このほか小笠原流献華展や平安の宮中行事「菊被締」飾りなど数々の神賑行事もあり、天保六年撰の『江戸名所図絵』にも「三日の間、市立ちて賑はへり」と記されているように、今でも終日多くの参詣者でご社頭が賑わいます。

氏子町会神幸所

- 大宮地区 (宮元会神幸所)
- 大宮一丁目町会神幸所
- 方南地区
- 峰睦会神幸所
- (峯栄会神幸所)
- 新栄若睦会神幸所
- 泉南睦神幸所
- 方南西神幸所
- 方南東神幸所 (上)
- 方南東神幸所 (下)
- 和田地区
- 和田睦会神幸所
- 和田敬神会神幸所
- 和田仲組神幸所
- 和田南神酒所
- 和田東神酒所
- 松ノ木地区
- 松ノ木睦会神幸所

大宮八幡祭り(秋の大祭)

祭典と奉納神賑行事

祭 事

- 神輿神霊入れ神事 9月14日
- 若宮八幡神社 宮例祭 9月14日
- 白幡 宮例祭 9月14日
- 各神幸所清祓・宮司巡拝 9月15日
- 宵宮祭 9月15日
- 例大祭(献幣使参向) 9月16日
- 氏子奉幣祭 9月16日
- 第二十二回神輿合同宮入り 9月16日
- 神輿神霊返し神事 9月17日
- 後朝祭(直会乃儀) 9月17日

神賑行事

- 第9回菊被締飾り 9月9日〜17日
- 奉納書画行燈 9月9日〜24日
- 献燈提灯 9月9日〜24日
- 弓道奉納射会 9月9日
- 小笠原流草鹿式 9月15日
- 大宮幼稚園園児民謡踊り 9月15日
- 方南エイサー踊り 9月15日
- 杉並太鼓 9月15日
- スカウトバザー 9月16日
- 野点茶会 9月16日
- 町内神輿渡御・宮入り(昼間) 9月16日
- スカウト神輿宮入り 9月16日
- 舞楽(佼成雅楽会) 9月16日
- 高井戸囃子 9月16日
- 盆裁展示会 9月15日・16日
- 第29回小笠原流献華展 9月15日〜17日
- 露 店 9月15日・16日



重陽の節句に菊被締飾り

杜の話題

春の大祭(つつじ祭) 齋行

今年も風薫る若葉のゴールデンウィーク5月3日より5日までの間、春の大祭が好天に恵まれ賑々しく執り行われました。

祝日法の改正により、昭和天皇の御誕生日である4月29日が「昭和の日」と制定されたことに伴い、大祭に先立ち当日の午前10時より昭和天皇のご懿徳をお偲び申し上げ初めての昭和祭が厳かに齋行されました。

主な祭事として、3日の午後からは春の大祭第一日ノ儀子供の祭(稚児健康祈願祭)並びに奉祝稚児行列が執り行われ、総勢四百人の行列が神門を出発し、大宮八幡入口交差点より八幡前商店街に入り、表参道を通り社殿前へと帰着致しました。

翌4日は、社殿に於いて春の大祭第二日ノ儀を齋行、敬神婦人会(りんどう会)の



会員や拳式者が参列。次いで神楽殿に於いて第七回「若葉inおみや」を開催。本年は、アメリカ出身の箏奏者カーティス・パ

ターソン氏と尺八奏者ブルース・ヒューバー氏兩名による奉納演奏に、二百余名の陪観者が音の世界を楽しみました。次いで第七回「拳式者の集い」

を開催、当宮にて婚礼を挙げられた12組の家族の皆様やりんどう会会員らが演奏者一人とそれぞれに親交を深めました。



次いで、「みどりの日」の移動に伴い、同日の午後2時より、当宮みどりの会主催に依る植樹祭(献木式)が執り行われました。献木奉納者にもご参列を頂き、大宮八幡宮の鎮守の杜を「緑の杜」に守り育てていく緑化推進の願いを、ご神前に奉告致しました。祭典終了後、各家庭にも緑を広げる運動の一翼として観葉植物が、ご参列の百五十余名の皆様へ授与されました。

5日は、午前10時より春の大祭当日祭「尚武祭」が執り行われ、五穀の豊穰・皇室の弥栄・国家の安泰・氏子崇敬者各位の繁栄をご祈願致しました。引続き、清涼殿にて直会が賑々しく開宴されました。

また、4月29日の弓道奉納射会を始めとして、3日より5日まで表参道に大宮八幡植木市や露店が出店、ご社殿前での様々な神賑いの奉祝行事も執り行われ、期間中多数の参拝の方々が賑わいました。

近衛甯子様ご参拝

三笠宮崇仁親王殿下のご長女、元内親王の近衛甯子様(やすこ)が春の大祭の4日午後、当宮にご参拝されました。

甯子様は新緑の境内をご散策、鎌田宮司と和やかに懇談をされました。



両陛下御渡航安泰祈願祭

天皇皇后両陛下には、去る5月21日より30日の間、スウェーデン王国、バルト三国及び英国をご訪問遊ばされました。これに先立ち当宮では5月15日、天皇皇后両陛下下瑞典王国波羅的三国英国御渡航幸啓安泰祈願祭を宮司以下祭員奉仕により中祭にて齋行。御帰国後の6月1日には御渡航還幸啓奉告祭を同じく中祭にてご奉仕申し上げました。

第四回大宮八幡宮の杜新能



第四回「大宮八幡宮の杜新能」が、去る5月19日(土)の夕刻より境内特設舞台上で奉納され、能「三輪」他が演ぜられました。この催しは、NPO法人「杉並

で能楽を楽しむ会」(会長田木千城夫)の主催、当宮の共催、杉並区文化協会の後援により開催されているもの。

当日は修祓の後、舞台上で火鑽神事。古式に則り、舞臺上から火が篝火に点され、舞囃子「熊坂・狂言「蝸牛」・能「三輪」の各一番が野村四郎氏率いる観世流の演者らにより奉納されました。「三輪」は古事記、日本書紀に記された三輪山伝説・三輪神婚説話や天岩戸隠れを題材にしたもの。古代、神々とおおらかな物語。中世の人々の神代に対する憧憬が生んだこの能の上演は、陪観者の人々をして神人一体の神代の世界へと誘いました。次回の第五回「大宮八幡宮の杜新能」は、平成20年5月17日(土)に開催の予定です。

第八回裏千家献茶式

今年は、前日の雨とは打って変わり快晴の爽やかな薫風の中、5月26日(土)午前10時より第八回「裏千家献茶式」が淡交会会東京第6東支部の担当主催で、茶道

裏千家今日庵、鵬雲斎千玄室、大宮匠先代15代家元ご奉仕のもと、新たな立礼の作法により厳かにご神前に濃茶と薄茶が献じられました。



奉賛添釜茶会の濃茶席、薄茶席、立礼席の三席とも大宗匠を囲み賑々しく催され、境内は終日和服姿の方々で賑わっておりました。また本年より新しい試みとして、菩提樹下では、もつとお茶に親しんで頂こうとの趣旨により、ご参拝の方々にご自身で抹茶を点でて味わっていただくという「抹茶の体験コーナー」も開かれました。



尚、当宮付属の大宮幼稚園においても、献茶式に伴い恒例の幼稚園茶席が開かれ、園児らは大宗匠直々のご指導もあり緊張しつつも可愛らしいお手を披露致しました。

第二十七回 杉並大宮さつき展

杉並区後援による第27回「杉並大宮さつき展」が5月25日より6月3日までの間、境内で催されました。氏子崇敬者より大小百鉢近いさつきが出品され、「華宝」「大盃」「千代の光」など丹精のこめられた作品が五月晴れの中、妍を競い人々の目を楽ませています。



「ちい散歩」で当宮を紹介

俳優の地井武男さんが都内近郊を散歩し、お勧めコースを紹介するテレビ朝日の朝の人気番組「ちい散歩」。

6月5日放送の「永福町より和田堀公園」へのお散歩コースで当宮が紹介されました。表参道より神門に入り、緑深い森に感嘆しつつ社殿前でお参り。続いて当宮宮司が、杉並区の貴重木に指定されている菩提樹と榎の木に大桜が寄生している共生の木（国際協調、宗教協力、相互扶助、夫婦和合などを示唆していること）を案内・説明する様子が放映されました。この日を機に多くの中高年の参拝者で社頭が賑わいました。



りんどう会第一回総会

昨秋発会の大宮八幡宮敬神婦人会「りんどう会」の第一回総会が去る4月15日、鎌田会長始め会員の皆様等四十余名が出席して開催されました。総会では同会の今後の活動などが協議されたほか、研究会も催され、当宮宮司が「暮らしの中の神まつり」と題して講話を行いました。

また当宮茶室にて裏千家淡交会東京第六東支部の増田幹事長らのご

奉仕により「りんどう茶会」を開催和やかなひとときを過ごされました。

多磨全生園永代神社例祭参列

去る6月6日午後、国立療養所多磨全生園の永代神社で同社例祭が執り行われ、当宮より敬神婦人会活動の一環としてりんどう会鎌田会長、高橋・五本木・堀友の各副会長、提督事務局長が参列致しました。

夏越の祓に大祓詞書写会

当宮教化活動としての大宮八幡塾の二つ「書写会」がりんどう会の事業活動にも取り入れられ、大祓神事に因み「大祓詞書写会」が、6月18日より22日の5日間、茶室神泉亭で開催されました。この書写会は清らかな心を込めて書写した大祓詞（約九百字）を奉納することにより大祓の御神徳を戴くというものです。期間中の参加者38名により浄書された大祓詞は、大祓神事に引続き行われた奉納奉告祈願祭に神前に納められました。



水無月の大祓齋行

平成19年前半の罪穢を祓ひ清める「夏越の大祓神事」が6月30日

午後4時、齋行されました。

宮司の大祓詞宣読のあと、形代を撫で、息を三度吹きかけ自祓の儀を執行。次いで、素戔嗚尊と蘇民将来の故事に基づく茅の輪神事が行われ、凡そ三百五十名の参列員は左・右・左と茅の輪を三回くぐって社殿に進み、引き続き大祓詞書写奉納奉告祭が齋行され、奉納者の心願成就や大祓参加者の無病息災を祈り、祭典が執り行われました。

形代流し旅行の実施

夏越の大祓でお納め頂いた形代を灰にして流す形代流し旅行が7月26・27日の両日行われ、今年度のNHK大河ドラマ「風林火山」で話題の甲斐路を探索しました。

一行37名は恵林寺や風林火山博などを見学。武田神社を正式参拝後、信玄公の産湯と云われる積翠寺温泉古湯坊に宿泊。翌日、甲斐源氏武田氏の氏神、武田八幡宮を参拝して付近の釜無川にて形代を流し、ワイン工場の見学やもも狩りを楽しみ、無事帰着しました。



王朝の雅び再現 第九回「乞巧奠」飾り 大宮八幡乞巧潜り神事も

平安朝の七夕飾り第九回「乞巧奠」飾りが7月1日より16日の間、清涼殿に展示されました。また今年より神門前には梶の葉や五色の布を垂らした「大宮八幡乞巧潜り」がお目見えし、期間中多くの参拝者が技芸の上達を祈り左右と三度潜っておられました。7日夕刻には「七夕の神遊び・技芸上達祈願祭」が宮司以下祭員奉仕により斎行されました。



「七夕の神遊び」も本年より行われたもので、神遊びとは神祭りのこと。中国の牽牛・織女の星祭りや我が国の棚機つ女伝説が合わさり平安時代より宮中を中心に行われてきた乞巧奠行事に因み、技芸の上達を祈る神事として斎行されました。御社殿での祭典のあと参列員等と共に乞巧潜りを行いました。また8日と15日には当宮雅楽部による雅楽の夕べの開催。また神門の大きな笹竹には、参拝者の願いを込めた短冊が付けられました。

神宮式年遷宮奉賛会 杉並支部を結成

来たる平成25年の第六十二回式年遷宮に向け、去る2月に式年遷宮奉賛会東京都本部が結成されました。これを受け杉並区での募財活動推進のため同奉賛会杉並支部の設立総会が7月18日当宮清涼殿で行われました。いよいよ勸募が始まります。ご奉賛をお願い致します。なお平成25年は、当宮御鎮座九五〇年の佳年にも当たります。

第七回納涼大宮天神祭り

夏の風物詩の第七回「納涼大宮天神まつり」が、今年も天神様のご縁日である7月25日に行われました。境内社の大宮天満宮で、今年も氏子崇敬者の方々や大宮幼稚園児・近隣の小中学生等を中心に二百四十点の「書・画の行燈」のご奉納を頂き、夕刻より灯りが入れられ幻想的な雰囲気醸し出される中、学業・技芸の向上を祈る「大宮天神祭」の祭典が斎行されました。

引き続き「時間をはずした日の祭事」として響道宴氏らによる和太鼓と舞踏による奉納演奏があり、境内に轟き亘る和太鼓



の音と舞踏の世界のひとつときを、一、二〇〇名を超す陪観の方々にご感応して頂きました。奉納演奏に続いて、「子供のミニ花火の集い」も催されました。

多摩清水社例祭

神門を出た茶室入口に「広き野に霊の清水のあるところ」と青敵の句碑がありますが、ここに詠まれている霊の清水は、「多摩の大宮」と云われた武蔵野の昔を想望してつくられ、今なおこの多摩清水社からは御神水が湧き出ております。本年も水の大切な盛夏の時期、水神様の御神徳を称え、生命の源である水の恵みに感謝する多摩清水社例祭が水の日の8月1日の朔日祭に続いて行われました。

大宮八幡宮戦没者慰霊祭

終戦記念日にあたる8月15日、氏子地域より出征された御英霊に追悼と感謝の誠を捧げる第二十四回大宮八幡宮戦没者慰霊祭(同実行委員会の主催)が斎行されました。ご遺族の方々やりんどう会会員にご参列を頂き、正午に全国戦没者追悼式に合わせて一分間の黙祷を捧げた後に斎行。祭典では慰霊祭詞奏上のもと、英霊の詞の奉読・大宮幼稚園園児によります追悼の舞・琴による「海ゆかば」の奉奏等を行いました。

社頭往来 (初詣を除く)

- 1月31日 湊川神社宮司 栃尾泰治郎氏
- 2月9日 五友会名誉会長 中村清氏(元会計検査院長)
- 2月9日 五友会会長 山崎眞氏(元海将)他
- 4月6日 竹駒神社宮司 千葉博男氏
- 4月7日 笠間稲荷神社宮司 塙東男氏
- 4月13日 東郷神社宮司 嶋田耕一氏
- 5月5日 明治神宮常任顧問 副島廣之氏
- 6月19日 B I A 会長 塩月弥栄子氏他
- 6月19日 横浜栄区氏子総代会会長 酒井勉氏 他三十六名
- 6月25日 東郷神社名誉宮司 松橋暉男氏
- 6月25日 東郷神社権宮司 福田勉氏
- 7月3日 WCRP 日本青年部会幹事長 松本貞一氏 世界宗教者平和会議 他十二名
- 7月9日 岡湊神社宮司 林田守邦氏
- 毎月1日 朔日祭 (どなたでも自由)
- 毎月15日 月次祭 (ご参列出来ず)
- 毎月最終の土曜日又は日曜日 大宮八幡宮フリーマーケット 杉能会バザー

毎月・お朔日参りを 致しましょう

大宮八幡の杜 秋も深まり

第九回 菊被綿飾りさくのかせわたかざり

当宮では平安時代に行われていた、重陽の節句の宮中行事「菊被綿」を平成11年の「天皇陛下ご即位十年」を奉祝して再現。本年も大宮八幡祭りを奉祝して第九回菊被綿飾りを9月9日より17日まで展示公開致します。



第二十九回 杉並大宮菊花展

杉並区内外在住の菊愛好家の方々によって、丹精込めて作られた数々の作品が出品される「第29回杉並大宮菊花展」。今年度は10月25日から11月25日にかけて開催されます。

平成11年度より杉並区の後援を得て杉並区長賞を戴き、愛好家の方々にはますます励みにもなり、いっそう素晴らしい菊花



が出揃います。近年は、近隣の秋の景観の自然美を縮小アレンジし小菊で再現する「盆景」が多数出品されております。また、世田谷区在住の宗田氏によりまた7・5・3文字菊の出展は、当展のみで珍しく素晴らしいもの、丹精のご苦労の跡がしのべれます。他にも色とりどりの花が、社頭を華やかに賑わせております。

新嘗祭

勤労感謝の日(11月23日)の午前10時より「新嘗祭」が斎行されます。この祭典は五穀豊穰を祈る春の祈年祭と一対の祭典で、新穀を神前に供え秋の収穫を感謝する祭典です。宮中を始め、全国津々浦々の神社でも行われております。



当宮でも例年、幼稚園の稲田で園児達が丹誠込めて育て収穫された稲穂をはじめ、篤志家やBS・GS、氏子崇敬者よりの新穀や御酒・野菜果物等が、また豊穰を感謝すると共に事業の繁栄に感謝し、崇敬企業様よりも数多くのお供え物をご神前に献納されます。つきましては、氏子の皆様方を始

め崇敬者各位の格別のご篤志を仰ぎ、ご献納をお願い致します。

第十七回 杉並花笠祭り

17回目を迎える初冬の風物詩「杉並花笠祭り」(主催・サミット(株)、(株)サミット・コルモ、大宮八幡宮)が12月8日(土)に開催されます。当日は、御社殿において杉並花笠祭奉納奉告祭を斎行の後、神門前のメインステージにて御神酒の鏡開きを皮切りに各種の催し物が次々と執り行われ、特に午前10時と午後1時の二回、西永福商店街から当宮まで、東京山形県人会花笠踊り愛好会や地元商店会婦人部とサミット役員の皆さまによって花笠踊りのパレードが奉納されます。表参道では山形の郷土料理の芋煮や地酒が無料で振る舞われ、山形特産の農産物・特産品などの露店がところ狭しと立ち並び、3万人の参拝者で賑わいます。



結婚式挙式者芳名(敬称略)

(平成十九年三月十六日)

平成十九年七月三十日

- 浅川純一・英子 儀賀一郎・光代
- 藤岡芳幸・都 筒井太郎・利衣子
- 谷修・亜子 上山耕平・美紀
- 栢植裕光・綾子 井上智之・わか菜

秋の大祭後の主な祭典行事

- 10月25日 第29回杉並大宮菊花展
- 11月25日 月次祭並七五三祝祭
- 11月15日 新嘗祭
- 11月23日 新嘗祭
- 12月8日 第17回杉並花笠祭り
- 12月23日 天長祭
- 12月31日 大祓(年越大祓) 除夜祭
- 平成20年 1月1日 歳旦祭
- 1月2日 元始祭

戌の日には

戌の日生まれの子育八幡さまで
安産祈願の祈禱を！
ご祈願お受けの方には安産腰帯岩田帯を
授与しております

子授祈願・初宮詣も随時お受けしております
戌の日早見表
(平成19年9月〜平成20年1月)

9月	9月1日(土)	13日(木)	25日(火)
10月	10月7日(日)	19日(金)	31日(水)
11月	11月12日(月)	24日(土)	
12月	12月6日(木)	18日(火)	30日(日)
1月	1月11日(金)	23日(水)	

第七回十五夜の神遊び

『月の音コンサート』

当宮では九月二十四日(休)の望月に第七回「十五夜の神遊び」を斎行致します。「神遊び」とは神慰め、神祭りのこと。満月の照らすご神域で竹筒に浮き蠟燭を浮かべた竹燈籠千基に淨火が点され、仲秋祭を斎行、雅楽や神楽舞の奉奏に続き、尺八と箏曲による「月の音コンサート」が催されます。



「月見の宴」のご案内

清涼殿ではこの日に因んだ特選の料理「月見御膳」をご賞味頂く「月見の宴」が催されます。

名月を愛でながら、古式ゆかしい雅楽の調べや尺八・箏の演奏をお楽しみ頂いたのち十五夜の雅と幽玄の余韻の中、「月見の宴」のひとつときをお過ごし頂きますようご案内申し上げます。

◎お土産用大宮八幡銘菓「竹ひめ」(当日のみ限定)

定員になり次第締め切らせて頂きます
お早めに申し込み下さい

※雨天でも「十五夜の神遊び」「月の音コンサート」は行われます。

お申し込み・お問い合わせは

大宮八幡宮 清涼殿まで

〇三(三三二二)七五一五

おめでとう 七五三詣

お子さまの健やかな成長と幸せな未来をお祈りする七五三詣。晴れの日を迎え、お子さま自身もひとつ大人になったという誇らしさ、可愛らしさで胸をいっぱいにすることでしょう。だからこそ、大切な記念日を家族皆さまの大きな愛で素晴らしい一日にしてあげてください。大宮八幡宮で全てをお決め頂ける展示ご予約会のご案内です。七五三のお祝い当日も同じ会場で開催致します。スタッフが参拝される皆様の大切な記念日をお手伝いさせていただきます。ご来場をお待ちしております。



七五三レンタルプランご予約会

ご予約会日：8月18日(土)より毎日開催
開催時間：朝10時～夕方5時まで

大宮八幡宮 清涼殿 TEL:03(3312)7515



【月見御膳】◎御神酒付

お一人様 4,800円(税込)

『月の音コンサート陪観指定席』含む
限定100名

七五三年齢表

三歳男・女児

平成17年生

五歳男児

平成15年生

七歳女児

平成13年生

※生まれ年年齢は数え年によるものです。
満年齢でお受け頂いても差し支えありません。

ジブリ美術館遠足



みなさんは、この近くに素敵な美術館があることをご存じですか?宮崎駿さんの世界が広がる「三鷹の森ジブリ美術館」です。

先日、幼稚園の年中さんと行ってきました。すでに家族で行ったことのある子もいましたが、やはり『友達と行く』という事で「あと何日かな?」と、指折り数えて心待ちにしていました。



ジブリ美術館では、大人も子供も『自分のチケットは自分で持ち、受付をする』という事になっていて、一人一人にチケットを手渡すと、「ココ切ったら駄目なんです」と緊張しながら入館していました。係の人に「お願いします」と渡すと、小さなフィルムのおりを頂きました。それぞれに違う絵柄で嬉しらしく、友達同士見せ合っていました。中に入ると、天井や壁に描かれていたフレスコ画がとても綺麗で暖かく、窓にはステンドグラスのトトロなどがキラキラと輝き、穏やかな気持ちになりました。子供達が一番喜んだのは、見るだけでなく乗ったりすることも出来る大きなネコバスでした。「先生!!空を飛んでみたい!」の中で寝てみたいななど心から楽しんでいました。また、小さい子が怖くない様にとても明るく造られている映画館で観た「メイとコネコバス」では、子供達は身を乗り出し主人公になりきっていました。とても短い時間でしたが、この一日は目・耳・手を使って本物と出会うことの出来た夢の様な時間だったようです。電車やバスを乗り継いで、子供達を連れて行くのはドキドキしましたが、子供達の見るもの触れるもの一つ一つに感動している姿を見ると、やはり行って良かったと思えました。私も子供達も、また一つ心を豊かにさせてもらいました。

教諭 奥村佳代子

初宮詣苗名

(平成 19 年 3 月 26 日 / 平成 19 年 7 月 15 日)

お子様のお健やかな成長をお祈り致します

岩崎桃子	鳥海ゆう	浦上大智	伊藤凜	重盛柚奈	富岡俊志	吉村真桜	曾根蒼太	高畑英史	渡辺尚子	田村悠朗	マデマデ	得丸秀翔	小俣早耶	田頭瑠莉	安井悠斗
山田咲絵	宇佐見壮亮	鈴木隆斗	小田悠翔	市川隼也	小川真結子	小澤咲空	中辻直央	杉崎翼	鎮西洗綺	酒井芳馬	大和	今村光裕	小俣菜奈	小玉太一	脇碧彩
小川原沙紀	藤田尚	松野太威	小倉咲花	武田さくら	丸山悠良	島田莉奈	竹内ゆいか	安藤陽翔	永野太一	藤崎果音	谷口智紀	小久保陽斗	岡田武大	石川歩美	白厩愛理
石川真乃介	中野利彩	小林莉緒	中野光彩	坂口涼	田中祐生	小林遼太	徳山晴太郎	堀之内恭子	清水桜和	出口紗矢香	内野伶威	永石逞馬	三枝蒼大	力丸千洋	大江あみ
宮垣柚来	相原佑果子	村田結花	香月彩賀	樋口竜成	角田真由香	上杉桃子	増田陸人	北條豪	西坂香菜子	町田悠介	長島莉央	田口福丸	川口祐哉	廣井千咲子	萩原都花彩
高橋大悟	齋藤隼	薄田悠翔	松本耀	岩瀬琢音	木所実琴	小室和葉	小笠原魁星	中津優人	諏訪部結子	入枝重斗	清永真人	坂口結香	鶴田真弓	小澤龍侍	永野昊
西嶋雄太	時森翔太郎	梶原瑠菜	平岡陽太	大津歩美	今田美紅	斎藤茉紀	小森沙穂	大笠耀太	高橋真歩	木我和真	野口千宏	水野瑛介	山田瑠都	石井奏大	高橋倭人
丸山裕基	西澤凜太郎	ナメシキ	工藤大和	鶴田獅央	山本蒼空	橋本和果	和田梨花	加藤太基	福原日菜	神保惟乃介	田邊宇太朗	実方日向我	為永香音	和田晃輝	藤田瑞希
高橋美咲	鈴木悠生	恵梨愛	湯朝美月	柳山夢咲	高橋怜愛	西川治孝	吉田仁	高柳まりな	長良樹	田尾蘭丸	小松真緒	八代みなぎ	進藤奏乃	中津原百音	鈴木睦長
岡大貴	大西彩加	吉澤剛	鶴田哲郎	大野麗	杉田悠晃	菊地太一	浅井紗基	清永采邑	大塚麒之介	高橋柚羽	中川湊人	松川瑛建	牧野涼音	矢野裕奈	前村陽矢
加藤靖葉	青盛由佳	西山侑希	榮良磨	栗原佑依	鈴木心温	鹿田湮風	南部和真	高橋知希	種本洗星	吉見亮洋	池田拓真	石川暖弥	北原馳大	川島龍	井戸英里圭
八木歩夢	峯田乙華	吉川優姫	伊藤菜々々美	長橋聡真	九里俊暁	樋口頌子	長谷川月咲	草間百花	今井颯大	萬歳晴菜	小倉禪莉	石川暖弥	北原馳大	川島龍	井戸英里圭
稲村聡太郎	石原まな	高橋完太	野部元気	飯野詩歩	佐藤蒼良	桑原武市	高橋瑠菜	勝部登羽	高橋舞桜	飯塚惇	早坂結菜	村澤祥太郎	木内咲歩	伊藤真之介	松崎成美
横山由侑	早見凜心	米山稜風	岡原幸生	中井妃那	山本茉莉	松下桂優香	大角祐翔	寺島未響	土肥春翔	高橋琴子	兵藤亜衣	清水優羽	柘上直輝	安達人紀	市川沙樹
進藤慧人	鈴木健太	矢可部駿甫	青木大岳	前田凌玖	佐藤雄太郎	村山真菜	矢野伶	櫻木悠加	川崎俊輔	岩村紗蘭	井野佑哉	大脇千裕	下河内通	星河快	清水凜
村主小雪	細野隼成	茂木駿一郎	稲垣慧	赤澤貫太	佐藤雄太郎	村山真菜	矢野伶	高安くらら	出井浜音	太田圭亮	霜中葵	刀祢芽衣	上田実果	田中啓太	濱野道朗
下田桜	松谷美香	梶川祥平	長坂ヒロ	藤原颯来	田中陽莉	福田航大	河上和希	黒田智子	佐久間美悠	梅田佳穂	八木仁愛	石川芽吹	恩田紅亜	川原竜也	染谷穂希
福永実世	松谷祐香	菊田美央	奥山志帆	茅野心春	児子湖雪	山本有咲	原昇太郎	石橋杏美	福田滯	大山和希	牧野文音	玉田智世仁	渡辺菜緒	森千陽	中川颯来
高梨雛嘉	石井啓太	山崎聡三郎	成合未来	伊平希	瀧澤晴香	石田瑠菜	菅谷天飛	小川真央	浅井里緒	阿部春太	永和香音	高橋萌衣子	北村陽太	村越朝日	田代菜々
三宮大河	能島愛莉	砂田美月	片桐はる奈	平林純弥	西村航	小林響葵	玉置琉碧	一刀慎吾	金城裕真	下田真衣	田中敬仁	浦上虎之進	平澤葵	千田陽菜乃	浜本玫瑰
シチズ有咲	樋口朋花	吉井大智	片桐有那	小林菜和美	大森佑太	河村真朱	原田晏名	田中信之介	中島杏菜	森田淳斗	安江菜桜	越野徹朗	佐々木勲九郎	小谷莉子	鈴木しずく
平野廣馬	正富優佳	和知利々花	小谷野結奈	田中裕基	石田郁弥	荒田つくみ	森田若菜	野村健太	岩本一花	太田慧	加藤真緒	布田大喜	佐藤愛純	堀江藤花	橋内美里
久保春菜	山下奈津	山口杏都	長島羽那	細川広輝	小森愛友	岡本青依	平之絢菜	百瀬正宗	砂川かりん	西江絢春	藤木健介	太田涼花	太田明生	後藤愛葉	仁田大智
進藤蒼磨	梶彩菜	鶴岡まゆ	青柳菜佳	塚秦温	橋本新夢	千葉凜々	松元遼	白瀬正崇	山崎凜兒	千葉日菜子	青木美伶	浅田陵太	リト竜空	山本純之介	亀山泰樹
中西紗慧	清水愛生	辻真衣	前田湖音	天野恭汰	田中優真	関雄斗	小澤しづか	白鳥小春	吉澤ひなた	澤田花音	小林佳祐	本橋佑哉	鮎川明日香	福井隼一	村野雄太
松岡航輝	吉川孝希	田村美羽	大矢花愛	大橋梓織	満田来斗	寺島史花	庭田心奈	藤本英里	小松泰吉	梁末蘭	岩本卓	高橋慶志	西前秀星	田中智祐	佐藤海愛
伊藤蒼真	志村律紀	嶺川真志	眞島詩惠莉	荒田樹希	戸倉央晴	渡部葵	山口航	平レリ	椎野泰	藤原寿蘭	林腰帆子	加藤梨成	濱中寿果	沖山怜太郎	小峯慶太
石井より	大平陸斗	寄本真彩	小濱原沙来	稲垣千咲	成島悠太	田中由珠季	中村紗彩	武将	羽山哲平	鈴木梨衣	中根菜子	北川竜成	花田心	新井陽奈	奥美奈
奥田泰三	長谷川水音	後藤愛美	小濱遼平	萩野陸兒	吉岡悠太郎	山本陽翔	池田悠吾	坂本風沙	後藤桃子	平田莉子	橋本七菜子	日比野保暉	杉安真緒	市原実柚	今井夏花
大坪朋奈	堀場雄斗	山下絢美	大野遙太	杉本千尋	川口翔和	山本陽翔	池田悠吾	町田陽太	水尾琉湊	朝倉寧	日高孝太郎	関口愛理	岡部瑛斗	武田快晴	
丸田愛莉	永田めぐみ	鳥海理功	今井福美	島村一玖	草川昂雅	酒井慶仁	山本虎ノ助	宮地美羽	小作亜美	宮内花凜	水上菜摘	池田匠哉	久保篤志	上田真桜	
高浦理結	海野貴亮	平本玲奈	榎本祐太郎	吉澤遼	菊地美玖	鈴木沙藍	八木太一	倉田隼也	加藤大智	後藤匠人	松田朋拓	久保村奈々	塗塀愛唯	高橋辰	

大宮八幡祭り(秋の大祭) 9月14日~17日

例大祭〔献幣使参向〕・氏子奉幣祭(16日午前10時より)



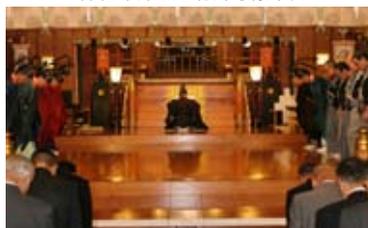
神社本庁より献幣使参向



氏子幣を奉じて



氏子幣をご神前に伝供



宮司、ご神前に祝詞を奏上



佼成雅楽会、舞楽を奉奏



賑々しく直会の開宴

第二十二回 神輿合同宮入り



ご神前にて神輿神霊入れ



8基の神輿の参入で、熱気と興奮に包まれます



境内では、連日神賑行事が奉納されます



小笠原流草鹿式



園児民謡踊り



野点茶会



表参道露店



杉並太鼓



小原流献華展



方南エイサー踊り

大 宮 第 79 号
 平成19年 大宮八幡祭り号
 平成 19 年 9 月 1 日発行
 大宮八幡宮社務所
 〒 168-8570
 東京都杉並区大宮 2-3-1
 電 話 (3311)0105 FAX(3318)6100
 Mail : info@ohmiya-hachimangu.or.jp